

科目名	多文化コミュニケーション論				
担当者	王 雪萍(オウ セツヘイ)				
年度	2020	授業コード	1540215001	科目ナンバリング	
対象年次	1～4	授業形態	-	単位数	2
時間割	春木 4	開講キャンパス	白山	教室	
主たる使用言語	日本語		実務教員科目		
授業科目区分					
授業回数					
受講対象学科					

【サブタイトル】

現代国際関係

【講義の目的・内容】

今日の世界はグローバル化と反グローバル化が同時に現れ、混迷している。専門家の間では、今日の国際関係における諸相は20世紀前半に類似している部分が多いとの指摘もある。この授業では、第二次世界大戦前から21世紀初頭までの国際関係について議論する。グローバルな視点で世界各国をめぐる国際関係の変化がもたらした影響について議論するため、本講義は日本、アジアにとどまらず、ヨーロッパ、アメリカ、ラテンアメリカ、中東やアフリカなどの地域についても学習の範囲として広げ、広い視野で現代の国際関係について議論する。

【学修到達目標】

国際社会、国際関係の歴史とそれによる今日への影響に関する基礎知識を身に付けてもらい、現在の国際社会における問題点を理解できるようにする。また世界各国・地域で行われた戦争や政治の変動が、国際関係に与えた影響を理解してもらおう上で、他者の立場に立って問題を分析し、対処する能力を身に付けてもらう。

【講義スケジュール】

秋学期

- 第1回 オリエンテーション、国際関係論に関する概説
- 第2回 ヨーロッパの時代からアメリカの時代へ
- 第3回 戦後を模索するアメリカと労働党政権下の戦後イギリス
- 第4回 ソ連におけるスターリン体制の再強化とドイツ第三帝国崩壊後のヨーロッパ
- 第5回 日本帝国の敗北と東アジア
- 第6回 アジア、アフリカの植民地と第二次世界大戦後の世界
- 第7回 アメリカとラテンアメリカ諸国、国連の発足
- 第8回 ヨーロッパの冷戦とアジアの戦争
- 第9回 西欧帝国主義の終幕と米ソ冷戦の継続
- 第10回 ベトナム戦争と米ソ中三国関係
- 第11回 第三世界の激動と米ソ・デタントの退潮
- 第12回 冷戦の終結と冷戦後の国際関係
- 第13回 アメリカの時代の終わり
- 第14回 まとめと総合討論
- 第15回 特別課題（TOYONET-ACEを通じてレポートの提出と回答）

【指導方法】

春学期だけ開講。シラバスのテーマにそって現代国際関係史に関連する事項を紹介し、関連問題について議論する。教科書とPower Pointを使つての授業となる。授業の内容について、授業中に質問や議論の時間を設けて、問題点を見つけて、議論できるように指導する。

【事前・事後学修】

授業内容を理解してもらうために、教科書の関連箇所を授業中に指示するので、必ず事前に読んでおくこと。毎回授業の後、しっかり復習し、教員の講義に対する質問・コメントを必ず提出してもらう。また授業時に教員が指示した課題についても必ず締切までにToyoNet-ACEを通じて提出してもらう。事前事後学習は毎週1時間程度必要である。

【成績評価の方法・基準】

期末試験 60%
 平常点（授業中の議論への参加、感想文など） 40%
 教科書を事前学習し、授業内容を聞いて理解した上で、授業中の議論に参加し、期末試験を受ければ、単位取得可能です。

【受講要件】

現代国際関係における興味がある学生なら、だれでも受講できる。授業中の議論へ積極的に参加してもらいたい。

【テキスト】

有賀貞著『現代国際関係史:1945年から21世紀初頭まで』東京大学出版会、2019年(3500円)

【参考書】

山影進著『国際関係論講義』東京大学出版会、2012年(2800円)
 モーリス・ヴァイス著、細谷雄一・宮下雄一郎監訳『戦後国際関係史——二極化世界から混迷の時代へ』慶應義塾大学出版会、2018年(3500円)。

【関連分野・関連科目】

【備考】